

柿園管理情報 第1号

令和3年3月19日

カイガラムシ防除について

砺波農林振興センター
城端果樹協会

春先における防除や粗皮削りにより、カイガラムシの越冬数を低下させることが、被害低減に有効です。以下を参考に防除を行って下さい。

散布時期	対象病害虫	散布薬剤	使用倍率	100リットル当たり薬量
3月末まで	カイガラムシ	機械油乳剤95	20	5リットル

※ 今年は3月の気温が高く、発芽は平年並みと思われます。薬害のおそれがあるので、発芽前までに散布を終えて下さい。

※ 粗皮削りは機械油乳剤の散布前に行うと、より効果的です。

※ 石灰硫黄合剤との近接散布（10日以上あける）は行わないで下さい。

※ 残った農薬や、洗浄薬は用水に流さないでください。

カイガラムシの被害が目立ったほ場では、スタークル顆粒水溶剤の幹塗布処理をおこなうと、効果的です。

散布時期	対象病害虫	散布薬剤	使用倍率	使用回数
3月末まで	コナカイガラムシ類	スタークル顆粒水溶剤	2	塗布1回

※ 1樹当たり20～40gを水で2倍に希釈し、幹に塗布します。

※ 塗布する部分はあらかじめ丁寧に粗皮削りを行い、表面が乾燥しないうちに、はけやブラシなどで塗布して下さい。

※ 使用回数は1回のみです。降雨に合わないよう処理日を選んで下さい。

※ 粗皮削りは主幹のみでなく、主枝や亜主枝の下側や、粗皮の発達したところを重点的に行って下さい。

※ コモ巻きを行った樹はコモを外し処分して下さい。

農薬散布時は周囲の他の作物に薬剤が掛からないよう、十分注意して下さい。

せん定枝処理について

※ せん定枝は野焼きせず、ウッドチップパー（せん定枝粉碎機）で粉碎処理して、柿園表面に薄く広げるか、積み上げて堆肥化させてから散布して下さい。なお、紋羽病発生の恐れがあるので、堆肥化していないものは土壌中にすき込まないで下さい。